

1980年に有機農業に転換。研修生20名が全国各地で就農

私と有機農業



↑ さつま芋の温床



↑ 種とり用キュウリと空飛ぶカボチャ



← ↑ 07年8月、日本有機農業研究会青年部の現地見学会で田畑の案内をする息子の成行さん



← 植木剪定枝を利用した植物性100%の堆肥

白い粒状の肥料にビックリ

実家では兄が家業を継いでいたため、私は1959年に農業高校を卒業すると、川崎の日本鋼管に就職しました。それから1、2年すると景気は非常に良くなり、神武以来の景気ということと「神武景気」といわれ、多くの産業が発展・成長した時代だったと思います。私は製鉄の原料を扱う仕事をしていました。石炭からコークスを生産し、そのコークスを燃やして溶鉱炉で鉄鉱石を溶かして洗鉄を生産する。

ある日、この製鉄会社で農業用の肥料ができるんだということを知りました。その幾日か後に、同僚が、白く小さい粒状の物を「これが農業用の肥料になるものだ」と見せてくれました。どの工程でどうしてこんな場違いな物ができるのかわかりませんでした。

それまでは、肥料といえはどの農家にも庭の片隅にあった堆肥とか海産物の乾燥した物などしか知りませんでしたので、非常に不思議でめずらしくて、手でさわって見たりしたものでした。幾人かの居合わせた人たちの中には、農業には関係のない人もいたと思いますが、みなめずらしがってびっくりして「これが農産物の肥しになるかよ、不思議だなあ」などと言っていました。この時が確か1962年か、63年頃だったと思います。しかしこれが後に、大変な地球の汚染源になろうとは、その時は誰も知りませんでした。

世田谷の大平博四さんの農場を手本に

1971年に日本有機農業研究会が誕生し、80年には浅井まり子会長の食生活研究会との提携が始まり、現在もお世話になっています。私が会社を辞めて専業農家となったのは1968年。80年

に有機農業に転換しましたが、その際手本としたのは、東京・世田谷の故・大平博四さんの農場です。また、日本有機農業研究会に関わることで徐々に多くの先輩とも親しく交流することができ、日本有機農業研究会の歩みの末席を温めさせていただいた次第です。

20名近くの研修生が全国各地で就農

このところ有機農業を志す若者、高齢者（といっても気持ちには若者）が多くなっていますが、実際に就農する段階になると、土地を借りることが困難な現状が待ち受けています。9月8日の日本農業新聞では、農業就業人口の高齢化が進み、これからの農業生産基盤の維持が危機的な状況にあるということですが、このような農地が企業の参入ではなく、個人の新規就農者に活用できるようにしてもらいたいものです。

国は食料自給率50%の達成を目標に掲げております。農業生産の維持拡大のためには新たな担い手として、新規就農者の確保が必要だと思えます。

今までに、20名近くの相原農場の研修生が日本各地に就農しておりますが、ここ数年、神奈川県内または、藤沢市内に就農を希望する研修生が増えてきました。今年は藤沢市内で3名、横浜で1名就農し、いろいろ問題もありますが、皆、希望を持って元氣一杯がんばっています。

地域に於いては長い間、有機農業の仲間がなく非常に孤独でしたが、おかげでこの頃は、わが家でも近くに仲間ができて非常に心強く、張合いを持って活動している次第です。

ありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。

相原伸光プロフィール

1940年藤沢市生まれ。有機農業推進協会理事。神奈川県立平塚農業高等学校卒業。80年から、畑180a、水田150aで化学肥料・農薬を使わずに野菜、穀類、水稲を栽培。農場内循環、地域内循環を心がけ、植木剪定枝を利用した植物性100%の堆肥と、自家飼育している豚・山羊・羊の糞尿を利用して肥料をつくっている。「農・未来塾」塾長として農家、農業のことを知ってもらうための活動を続けている。

相原農場★〒252・0826 神奈川県藤沢市宮原2394

TEL・FAX 0466・48・2725

e-mail <shokunoken@com.home.ne.jp>



↑ 1頭だけ自家飼育している豚ちゃん



↑ 発芽したてのインゲン



← 稲のしきわらで育つピーマン



04年9月、農場視察に訪れたタイの研究者たちに踏み込み温床の説明をする成行さん →